

## 北上川水系河川整備計画（大臣管理区間）を変更しました

◇東北地方整備局は、北上川水系において概ね30年間で実施する河川整備の目標と内容について取りまとめた北上川水系河川整備計画（大臣管理区間）を平成24年11月20日に策定し、これに基づき河川整備を進めてきました。

◇この度、河川整備計画策定以降に発生した課題等を踏まえて、河川整備計画を平成30年6月29日に変更しましたので公表します。

◇今後、変更した新たな河川整備計画に基づき、北上川水系のさらなる安全・安心の向上のため、従来から実施している河川整備に加え、今回変更した、既設ダムの有効活用による北上川上流域の安全度向上に向けた対応等について、地域と一体なり着実に進めていきます。

◇北上川水系河川整備計画【変更】は、以下のウェブサイトからご確認いただけます。

<岩手河川国道事務所のホームページ>

[http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/kawa/seibi\\_keikaku/keikaku.html#kei-02](http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/kawa/seibi_keikaku/keikaku.html#kei-02)

<北上川下流河川事務所のホームページ>

<http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/construction/planning.html>

《発表記者會》

岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会  
石巻記者クラブ、古川記者クラブ

<問い合わせ先> 国土交通省 東北地方整備局

【岩手河川国道事務所】岩手県盛岡市上田四丁目2-2 TEL 019-624-3166

副 所 長 堀井 一保 (内線204)

調査第一課長 三浦 俊明 (内線351)

【北上川下流河川事務所】宮城県石巻市蛇田字新下沼80 TEL 0225-94-9847

副 所 長 外山 久典 (内線205)

調 査 課 長 齊藤 勝博 (内線351)

# 北上川水系河川整備計画変更までの流れ

河川整備基本方針（平成18年11月）※平成24年11月一部変更

河川整備計画策定（平成24年11月）

平成25年8月・9月北上川上流連続洪水

平成27年9月 関東・東北豪雨

平成28年8月 台風10号

水防法の改正

水防災意識社会再構築ビジョンの策定 など

河川整備計画点検（平成29年度）

平成29年12月25日

説明

意見

河川整備計画変更の検討

- 上流部の治水安全度向上対策検討
- 近年の洪水被害等を踏まえた危機管理施策の反映 など

平成30年5月1日  
～平成30年5月30日

パブリック  
コメント

意見

（素案公表）平成30年5月1日

河川整備計画（変更素案）の公表

平成30年4月25日

説明

意見

河川整備計画（変更原案）

平成30年6月13日

説明

意見

関係機関意見聴取（岩手県・宮城県・関係省庁）

（策定）平成30年6月29日

河川整備計画（変更）の公表

流域住民

北上川水系河川整備学識者懇談会

1. 既設ダムの有効活用による上流域の安全度向上
2. ダム放流の制約となる下流ボトルネック箇所への対応
3. 気候変動等を踏まえた危機管理対応の充実

## 1 既設ダムの有効活用による北上川上流域の安全度向上

近年、全国各地で短時間の豪雨による災害が頻発しており、平成27年9月関東・東北豪雨や平成28年の台風10号など、東北地方でも甚大な洪水被害が発生しています。

北上川上流では、平成25年8月と9月の洪水で、盛岡市近郊の四十四田ダムと御所ダムにおいて、計画を上回る既往最大流量を記録、御所ダムでほぼ満杯まで洪水を貯留し、下流盛岡市の洪水被害を防止しました。

北上川の上流域は、流域内で最大の人口・資産が集積する盛岡市を抱え、ダム等の治水施設の能力を超える豪雨が発生した場合、その被害は甚大です。

このため、「四十四田ダムと御所ダムの洪水調節機能向上」のための対策を実施し、下流域の安全度を下げること無く、盛岡市街地を含む北上川上流域の安全度向上を図ります。



四十四田ダム下流に広がる盛岡市街地

### 四十四田ダムと御所ダムの洪水調節機能向上

#### ◆四十四田ダムの貯水容量増大

四十四田ダムのかさ上げにより、洪水調節容量を最大1.2倍に増加させます。

※嵩上げなど、貯水池容量増大の具体的な実施の手法については、今後、詳細な調査、検討を行い決定します。

#### ◆御所ダム等の柔軟で効果的な運用

近年、頻発する短時間の豪雨に対しても、より柔軟で効果的な対応が可能となるよう、御所ダム等の操作ルールを変更します。

※具体的な操作ルールは、今後、詳細な検討を行い決定します。

## 2 ダム放流の制約となる下流ボトルネックへの対応

四十四田ダムの下流に局所的な流下能力不足箇所（ボトルネック）があるため、ボトルネック箇所周辺の家屋等に被害を生じさせないよう、洪水調節時の最大放流量を能力未滿に制限している状況にあります。

ボトルネック箇所の流下能力を向上させることで、より大きな洪水流量から洪水調節操作を開始することが可能となり、四十四田ダムの洪水調節容量のさらなる有効活用が期待できます。

このため、ボトルネック部の流下能力を向上させるための対策を行います。

※ボトルネック箇所の具体的な流下能力向上対策については、今後、詳細な検討を行い決定していきます。



四十四田ダム下流の流下能力不足箇所

## 3 気候変動等を踏まえた危機管理対応の充実

近年、時間雨量50mmを超える短時間豪雨や総雨量が数百ミリから千ミリを超えるような大雨が発生し、全国各地で甚大な水害が多発しています。地球温暖化に伴う気候変動の影響により、今後も短時間豪雨の発生頻度や降水量の増大が予想されており、施設の能力を大幅に上回る極めて大規模な洪水発生懸念が高まっています。

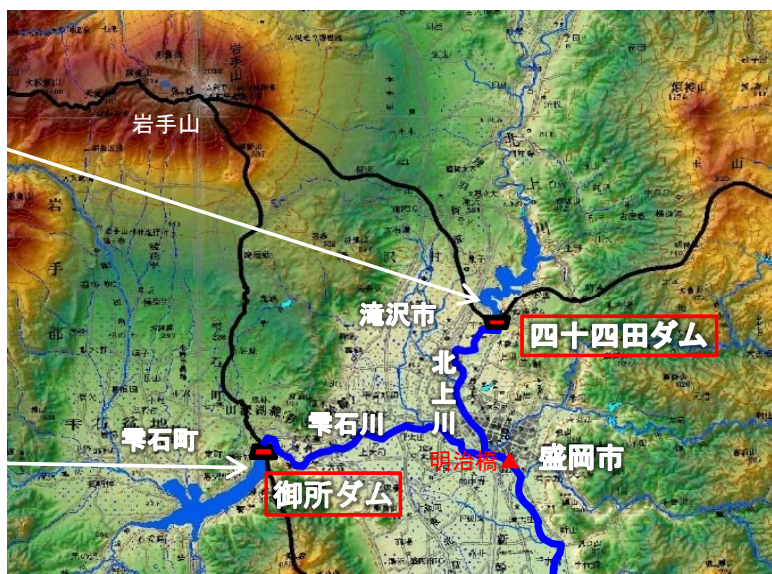
これらに対応するため、水文データの蓄積・分析を重ね、行政・住民・企業等の各主体が水害リスクに関する知識と心構えを共有し、住民の避難を促すためのタイムラインの整備や、地域住民も参加する危険箇所の共同点検、広域避難に関する仕組みづくりなど、ソフト対策をより充実させる取り組みを推進し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進することにより、想定される最大規模の洪水等が発生した場合でも、人命・資産・社会経済の被害をできるかぎり軽減します。



四十四田ダム洪水調節状況（H25.9洪水）  
洪水調節と併せて大量の流木を捕捉し、ダム下流盛岡市街地などの被害を防いだ。



御所ダム洪水調節状況（H25.8洪水）  
洪水調節容量をほぼ満杯まで使い、ダム下流盛岡市街地などの被害を防いだ。



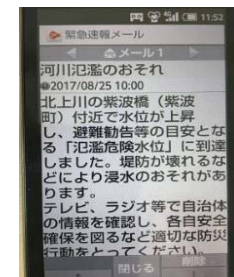
盛岡市を含む北上川上流域とダムの位置



大雨災害を想定した防災避難訓練の実施状況



CCTVカメラによる河川状況の配信



H29. 8月洪水時の市町への配信内容